

小山市事務事業評価シート

平成30年度版

No. 18

1. 基本情報							
＜1＞事業・業務名		小山市中学生ケアンズ派遣事業			＜2＞事業・業務の別		事業
＜3＞選定基準		② 平成29年度新規・継続重点事業			＜4＞継続評価・新規評価の別		継続評価
＜5＞ 総合計画 基本計画 での体系	大項目	1 みんなで協働 市民参加の行政づくり			＜6＞担当部(局)		市民生活部
	中項目	1-2 心ふれあうコミュニティと国際交流			＜7＞担当所属		市民生活課
	小項目	1-2-2 国際交流			＜8＞担当係等		国際企画交流係
	施策	外国都市との交流の促進					
＜9＞根拠法令・計画等					＜10＞関連・類似事業		中学生紹興市派遣事業
＜11＞会計		一般		会計	＜12＞予算科目		2 款 1 項 1 目
＜13＞実施期間		15 年度 ～		年度	＜14＞全体事業費		千円
＜15＞実施手法		一部委託		「その他」の場合 ()			

2. Do - 実施 -								
＜16＞事業・業務の概要		公募により選考された市内学生を姉妹都市であるオーストラリア・ケアンズに派遣し、交流を図る。						
目的	＜17＞事業・業務の目的	姉妹都市との交流を通して友好を深め、グローバル化する国際社会に対応できるように、学生の国際感覚を養うとともに、英語によるコミュニケーション力の強化、異文化に接することによる外国文化への興味・理解を促進する。						
	＜18＞事業・業務の対象	国際交流に関心のある、市内中学校3年生及び義務教育学校9年生。						
手段	＜19＞平成29年度の活動内容	市内学生28名及び引率教員4名の計32名をオーストラリア・ケアンズに派遣し、市役所への表敬訪問や学校訪問に加え、授業体験やホームステイを行い、現地の学生との交流を深めた。						
	＜20＞活動指標 (アウトプット)	指標名	単位	平成28年度		平成29年度		
				計画	実績	計画	実績	達成率(%)
		派遣人数	人	28	28	28	28	100.0%
成果	＜21＞事業・業務の成果	現地ででの生活を通して、国際交流に積極的な姿勢を示す学生を増やす。						
	＜22＞成果指標 (アウトカム)	指標名	単位	平成28年度		平成29年度		
				計画	実績	計画	実績	達成率(%)
		報告書で「今後も積極的に英語を学びたい」等の肯定的感想を持った生徒数	人	28	28	28	28	100.0%
コスト ～資源の投入量	＜23＞投入指標 (インプット)	区分	単位	平成28年度		平成29年度		
				計画	実績	計画	実績	投入率(%)
	コスト	千円	8,607	7,842	8,598	8,584	99.8%	
	事業費等	千円	5,000	4,235	5,000	4,986	99.7%	
	財源内訳	国・県補助金	千円					
		地方債	千円					
		その他	千円					
一般財源	千円	5,000	4,235	5,000	4,986	99.7%		
人件費	千円	3,607	3,607	3,598	3,598	100.0%		
正職員	千円 × 人役	7,214 × 0.5	7,214 × 0.5	7,195 × 0.5	7,195 × 0.5			
他の職員		×	×	×	×			

3. Check - 評価 -								
実績評価	妥当性	<24> 目的・対象の 妥当性	1.妥当である	理由	ケアンズステイトハイスクールとの盟約を市教育委員会が結んでいるため、対象は小山市内中学校及び義務教育学校の生徒で妥当である。また、盟約により派遣生徒は30人以内となっており、対象拡大等が困難であるため、妥当であるとした。また、ホームステイ先の確保等、旅行会社への委託を検討した年度もあったが、派遣がホームステイの需要と人気がとても高い時期であり、手配が難しいとの回答を旅行会社から得たため、手段についても妥当であるとした。			
		<25> 手段や実施手法の 妥当性	1.妥当である					
	有効性	<26> 成果の向上余地	2.向上の余地がある	理由	派遣生徒の語学力の向上・国際感覚の醸成という点においては、十分な成果が見られるものの、派遣生徒の市への貢献という点において、向上させていく必要がある。			
	効率性	<27> 事業費や人件費の 削減余地	1.削減の余地なし	理由	年度によって往復の飛行機代や現地滞在費等が高騰することが多いため、削減の余地なしとした。			
	公平性	<28> 受益者負担の 適正化余地	2.見直す必要がある	理由	往復の飛行機代や現地滞在費等の派遣費用に対して、派遣者の自己負担額の割合が適正かどうか再検討する必要があるため、見直す必要があるとした。			
	<29>総合評価	2.改善の余地がある	理由	派遣者の自己負担額や派遣後の生徒たちの市への貢献について、検討の余地があるため、改善の余地があるとした。				
4. Action - 改善 -								
事業の改善	<30> 事業の課題 事業の改善点 今後の進め方等	参加生徒は、帰国後の報告会等を通じた成果報告に加え、希望者については青年国際交流大使への参加という形で市の国際交流に貢献している。しかしながら、学業や仕事等本業のスケジュールが合わなかったり、小山市外への転居等により小山市での活動に参加できない大使もいるために、活動を拡大させることが困難である点が課題であり、今後は、小山市を訪れホームステイを希望する海外からの学生の受け入れ等、新たな貢献方法を模索し、積極的な参加を呼び掛けていく必要がある。						
事業の方向性	<31> 1次評価	所属長	3.現状維持	理由	派遣される生徒は限られるが、継続して実施することにより、国際性豊かな人材の育成、国際理解の向上、さらには姉妹都市との交流促進などに資することから、継続することが妥当と考える。			
	<32> 2次評価	所管部長	3.現状維持	理由	派遣生徒は異国の文化や生活習慣に触れることで、世界に視野を向ける良い機会となり、将来的に国際感覚を持った人材育成に貢献する事業である。ケアンズ市との友好関係の促進、小山市の国際化の推進にも必要な事業である。			
5 Plan - 計画 -								
事業の計画	<33>実施計画	姉妹都市オーストラリア・ケアンズへ生徒を派遣し、ケアンズステイトハイスクールや現地の市民との交流を深める。		<35>コスト	区分	単位	平成30年度	平成31年度
	<34>活動・成果目標	現地での生活を通して、国際交流に積極的な姿勢を示す学生を増やす。			コスト	千円	8,898	8,898
					事業費等	千円	5,300	5,300
				人件費	千円	3,598	3,598	